

青森県経済統計報告

令和5年8月2日

企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口（令和5年7月1日現在）…………… 1

県人口 1,188,043人（対前月1,048人減少）	
自然動態	1,079人減少（出生者数 488人、死亡者数 1,567人）
社会動態	31人増加（転入者数 1,220人、転出者数 1,189人）

2 本県の経済動向（令和5年5月・6月の経済指標を中心として）

（1）経済概況

本県経済は、物価上昇などの影響がみられるものの、持ち直している。
なお、直近の景況感（青森県景気ウォッチャー調査・令和5年7月期）をみると、前期から上昇し、景気の横ばいを示す50を2期連続で上回った。

（2）主要経済指標の動向

- (2-1) 生産動向 ・令和5年5月の**青森県鉱工業生産指数**（平成27年=100）は、季節調整済指数が99.2で、前月比0.6%の上昇となり、2カ月連続で前月を上回った。また、原指数は95.1で、前年同月比0.4%の上昇となり、3カ月ぶりに前年同月を上回った。 …… 2
- (2-2) 雇用労働 ・令和5年5月の**定期給与**は224,099円で前年同月比0.2%減となった。 …… 3
総実労働時間は143.4時間で前年同月比2.4%増、**所定外労働時間**は7.3時間で前年同月比14.0%減となった。
・令和5年6月の**有効求人倍率**（季節調整値）は1.18倍となり、27カ月連続で1倍を上回った。
- (2-3) 物 価 令和5年6月の**青森市消費者物価指数**（令和2年=100）は、総合指数が106.5となり、前月比0.1%の上昇、前年同月比3.1%の上昇となった。また、生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は104.6となり、前月比0.1%の下落、前年同月比4.0%の上昇となった。 …… 5
- (2-4) 個人消費 ・令和5年6月の**百貨店・スーパー販売額**は、149億円で全店舗ベースが前年同月比2.7%増となり、12カ月連続で前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月比2.7%増となり、12カ月連続で前年同月を上回った。 …… 6
・令和5年6月の軽乗用車を含めた**乗用車新車登録・届出台数**は3,537台で、前年同月比26.9%増となり、6カ月連続で前年同月を上回った。
・令和5年6月の主な観光施設の**観光入込客数**は、84万4千人で前年同月比47.1%増となり、15カ月連続で前年同月を上回った。また、主な宿泊施設の**宿泊者数**は、21万6千人で前年同月比13.9%増となり、6カ月連続で前年同月を上回った。
- (2-5) 建 設 ・令和5年6月の**新設住宅着工戸数**481戸で、前年同月比11.3%減となり、5カ月連続で前年同月を下回った。 …… 8
・令和5年6月の**公共工事請負金額**は216億9,300万円で前年同月比3.9%増となり、2カ月連続で前年同月を上回った。
- (2-6) 企業倒産 令和5年6月の**企業倒産**は、件数は10件で前年同月比100.0%増となった。負債総額は90億4,700万円で前年同月比1533.0%増となり、7カ月連続で前年同月を上回った。 …… 8

（3）景気動向指数C I（令和5年5月分）…………… 9

先行指数	108.0（前月を2.7ポイント上回り、2カ月ぶりに上昇した）
一致指数	79.2（前月を0.8ポイント下回り、2カ月ぶりに下降した）
遅行指数	97.9（前月を1.9ポイント上回り、2カ月連続で上昇した）

（4）青森県景気ウォッチャー調査（令和5年7月期）…………… 10

3カ月前と比べた景気の現状判断D I ……63.1（前期比4.6ポイント上昇、2期連続で50を上回る）
3カ月後の景気の先行き判断D I …… 61.1（現状判断D I と比べ2.0ポイント低下）

1 青森県の推計人口(令和5年7月1日現在)

【概況】

現在の本県推計人口は、1,188,043人で、対前月1,048人の減少となった。

○自然動態

出生者数が488人、死亡者数が1,567人で、1,079人の減少となった。

○社会動態

転入者数が1,220人、転出者数が1,189人で、31人の増加となった。

総人口の推移

(単位:人)

	総数	男	女	対前月増減率	増減数	自然増減数	出生者数	死亡者数	社会増減数	県外からの転入者数	県外への転出者数
昭45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10.1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
27.10.1	1,308,265	614,694	693,571	-	-65,074	-	-	-	-	-	-
令2.10.1	1,237,984	583,402	654,582	-	-70,281	-	-	-	-	-	-
4.7.1	1,207,127	569,009	638,118	-0.070%	-848	-946	476	1,422	98	1,375	1,277
4.8.1	1,206,193	568,608	637,585	-0.077%	-934	-987	480	1,467	53	1,724	1,671
4.9.1	1,205,356	568,367	636,989	-0.069%	-837	-1,100	557	1,657	263	1,883	1,620
4.10.1	1,204,343	567,893	636,450	-0.084%	-1,013	-1,082	519	1,601	69	1,448	1,379
4.11.1	1,203,253	567,491	635,762	-0.091%	-1,090	-1,207	501	1,708	117	1,329	1,212
4.12.1	1,202,030	566,913	635,117	-0.102%	-1,223	-1,273	484	1,757	50	1,152	1,102
5.1.1	1,200,464	566,223	634,241	-0.130%	-1,566	-1,534	470	2,004	-32	1,074	1,106
5.2.1	1,198,490	565,310	633,180	-0.164%	-1,974	-1,634	498	2,132	-340	941	1,281
5.3.1	1,196,789	564,485	632,304	-0.142%	-1,701	-1,329	441	1,770	-372	977	1,349
5.4.1	1,190,685	561,430	629,255	-0.510%	-6,104	-1,294	491	1,785	-4,810	3,360	8,170
5.5.1	1,190,195	561,336	628,859	-0.041%	-490	-1,099	480	1,579	609	3,214	2,605
5.6.1	1,189,091	560,764	628,327	-0.093%	-1,104	-1,171	515	1,686	67	1,333	1,266
5.7.1	1,188,043	560,320	627,723	-0.088%	-1,048	-1,079	488	1,567	31	1,220	1,189

6月中の人口動態の推移

(単位:人)

年月	平25.6	26.6	27.6	28.6	29.6	30.6	令元.6.	2.6	3.6	4.6	5.6	
自然動態	出生者数	683	711	750	689	643	624	611	631	546	476	488
	死亡者数	1,229	1,283	1,357	1,330	1,317	1,361	1,314	1,421	1,446	1,422	1,567
	自然増減数	-546	-572	-607	-641	-674	-737	-703	-790	-900	-946	-1,079
社会動態	県外からの転入者数	1,218	1,247	1,257	1,126	1,193	1,109	1,091	1,027	1,015	1,375	1,220
	県外への転出者数	1,273	1,441	1,371	1,288	1,329	1,273	1,363	1,141	1,179	1,277	1,189
	社会増減数	-55	-194	-114	-162	-136	-164	-272	-114	-164	98	31
増減数計	-601	-766	-721	-803	-810	-901	-975	-904	-1,064	-848	-1,048	

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27、令和2年は国勢調査人口(確定値)。

※2 令和2年11月1日以降の人口は、令和2年国勢調査人口(確定値 総務省統計局 令和3年11月30日)を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27、令和2年が各々の前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口=前月の人口+自然増減数(出生者数-死亡者数)+社会増減数(県外からの転入者数-県外への転出者数)

2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

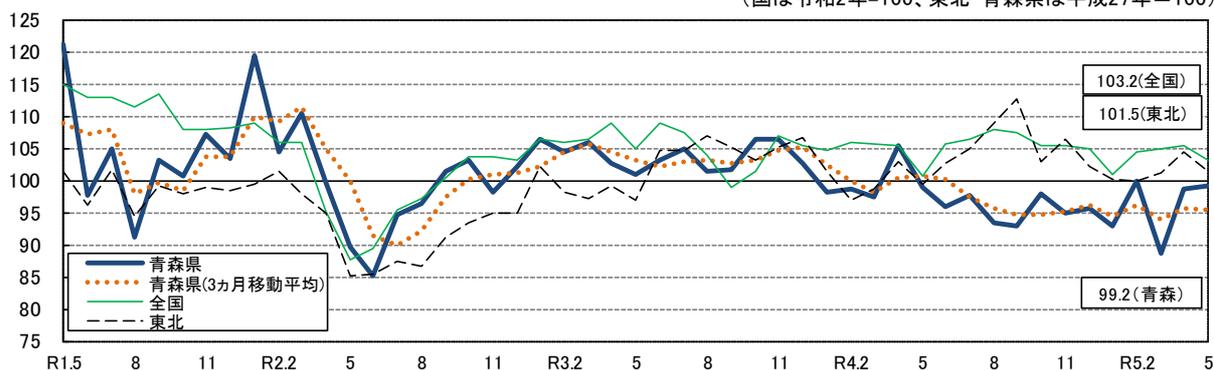
(2-1) 生産動向

令和5年5月の青森県鉱工業生産指数(平成27年=100)は、季節調整済指数が99.2で、前月比0.6%の上昇となり、2ヵ月連続で前月を上回った。また、原指数は95.1で、前年同月比0.4%の上昇となり、3ヵ月ぶりで前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、電気機械工業、輸送機械工業、はん用機械工業等が上昇に寄与した一方、金属製品工業、化学工業、業務用機械工業等が低下し、鉱工業全体では0.6%の上昇となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移(季節調整済指数)

(国は令和2年=100、東北・青森県は平成27年=100)



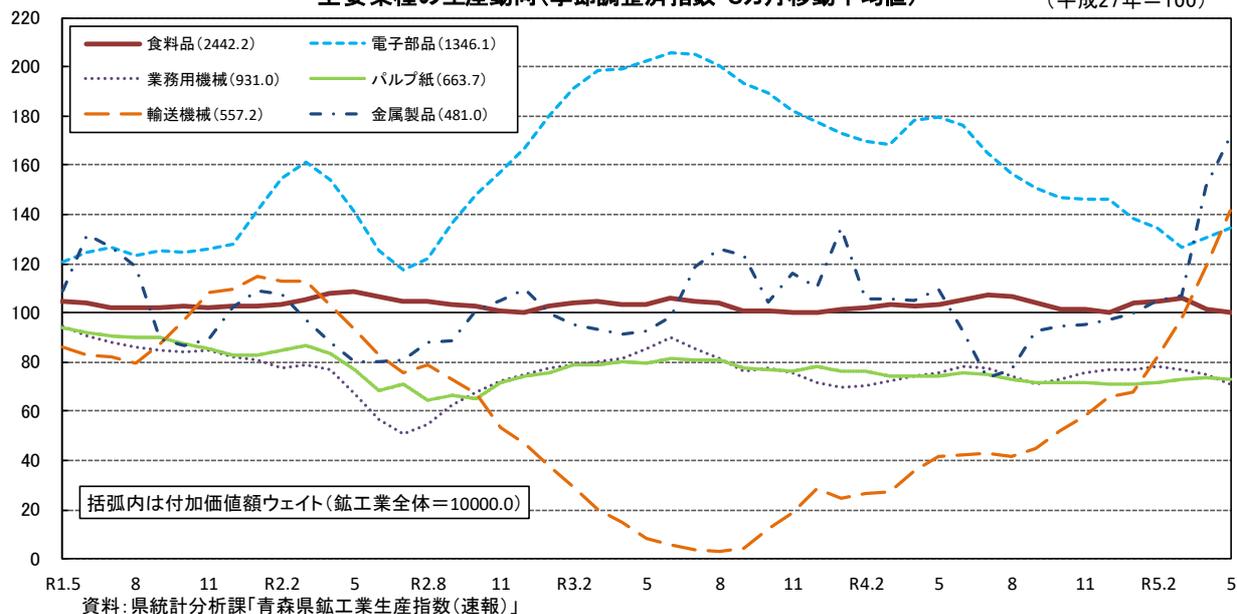
◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体 0.6%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
電気機械工業	146.3	98.3	金属製品工業	-31.0	-146.8
輸送機械工業	31.3	92.1	化学工業	-10.9	-26.0
はん用機械工業	71.5	38.1	業務用機械工業	-9.5	-25.8
食料品工業	2.7	25.5	パルプ・紙・紙加工品工業	-3.9	-7.7
非鉄金属工業	28.1	25.0	鉄鋼業	-9.3	-5.4

※寄与率とは、総合指数の上昇(低下)に対する、業種ごとの影響度を構成比で示したものであり、ポイント差とウエイトとの総合的な大きさで決まる。

主要業種の生産動向(季節調整済指数・3ヵ月移動平均値)

(平成27年=100)



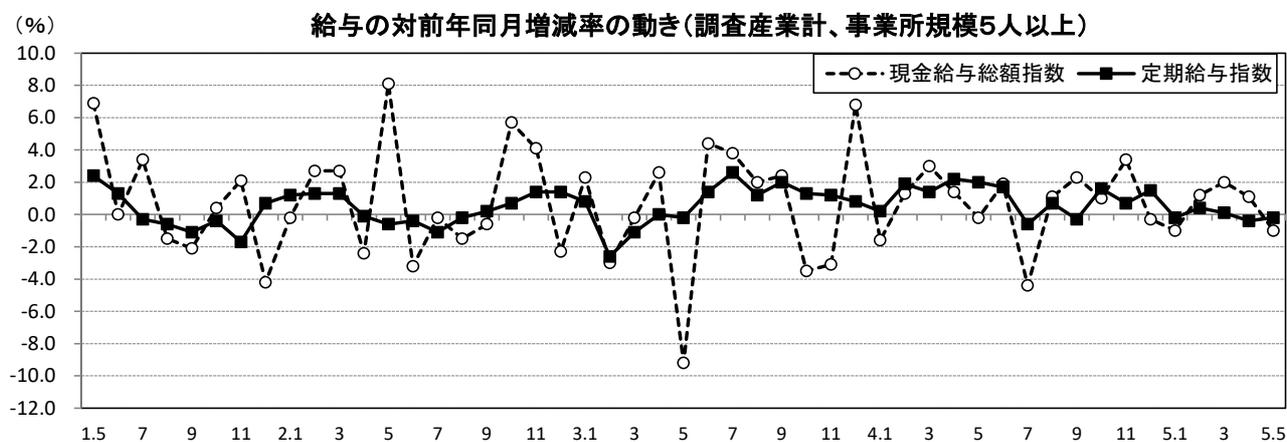
資料: 県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-2) 雇用労働

(2-2-1) 給与・労働時間（毎月勤労統計調査結果）

令和5年5月の定期給与は224,099円で、定期給与指数（令和2年=100）では100.7となり、前年同月比0.2%減と2カ月連続の減（現金給与総額233,005円、現金給与総額指数89.1、前年同月比1.0%減）となった。

総実労働時間は143.4時間で、総実労働時間指数は97.4となり、前年同月比2.4%増と2カ月ぶりの増となった。このうち、所定外労働時間は7.3時間で、所定外労働時間指数は77.7となり、前年同月比14.0%減と12カ月連続の減となった。



資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果（速報）」

給与及び労働時間の全国との比較（調査産業計、事業所規模5人以上）

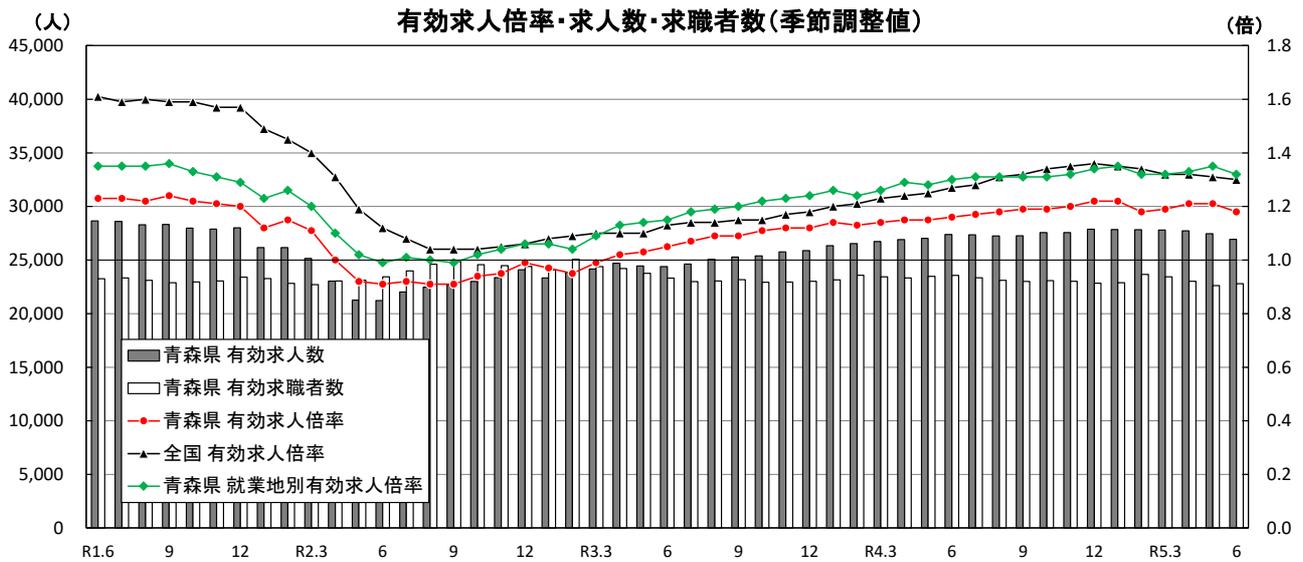
	実 数		指数 (R2=100)		対前年同月増減率	
	青森県	全 国	青森県	全 国	青森県	全 国
現金給与総額	233,005 円	283,868 円	89.1	89.2	-1.0 %	2.5 %
定期給与	224,099 円	270,503 円	100.7	103.1	-0.2 %	1.7 %
特別給与	8,906 円	13,365 円	—	—	—	22.2 %
総実労働時間	143.4 時間	133.5 時間	97.4	98.8	2.4 %	1.9 %
所定内労働時間	136.1 時間	123.8 時間	98.6	98.3	3.4 %	2.0 %
所定外労働時間	7.3 時間	9.7 時間	77.7	105.4	-14.0 %	0.0 %

- (注) 1. 「定期給与」とは、あらかじめ定められている支給条件、算定方法によって支給される給与のことで、超過労働給与（所定の労働時間をこえる労働、休日労働、深夜労働に対して支給される給与）を含みます。
2. 「特別給与」とは、給与の差額追給額（ベースアップ分）、3か月をこえる期間単位で支給される住宅手当や通勤手当、賞与（ボーナス）等のことです。
3. 「所定内労働時間」とは、正規の始業時刻と終業時刻との間から休憩時間を差し引いた労働時間のことです。
4. 「所定外労働時間」とは、早出、残業、休日出勤等の労働時間のことです。
5. 令和4年1月分から各指数は基準更新により令和2年平均が100となるよう改訂しています。
6. 全国数値は令和5年5月分速報値です。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果（速報）」

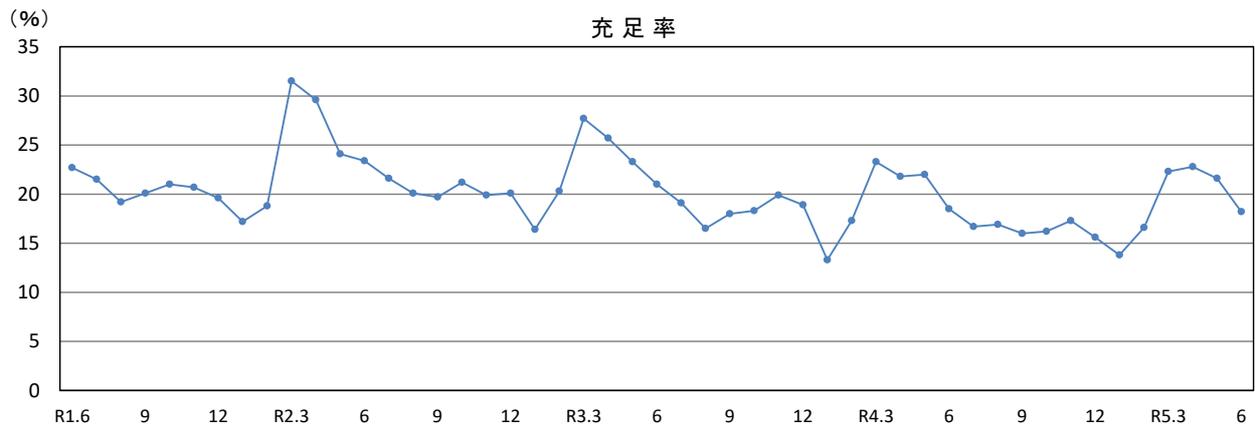
(2-2-2) 有効求人倍率

令和5年6月の有効求人倍率(季節調整値)は1.18倍となり、27カ月連続で1倍を上回った。就業地別有効求人倍率は1.32倍となった。



(参考) 充足率(新規学卒者を除きパートタイムを含む)

令和5年6月の充足率は18.2%で、前年同月を0.3ポイント下回った。



資料: 青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」※充足率=充足数/新規求人数

(2-3) 物価

令和5年6月の青森市消費者物価指数(令和2年=100)は、総合指数が106.5となり、前月と比べ0.1%の上昇、前年同月と比べ3.1%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は106.2となり、前月と比べ0.6%の上昇、前年同月と比べ3.1%の上昇となった。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は104.6となり、前月と比べ0.1%の下落、前年同月と比べ4.0%の上昇となった。

総合指数が前月と比べ0.1%の上昇となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道、交通・通信などの上昇が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ3.1%の上昇となった内訳を寄与度でみると、食料、住居などの上昇が要因となっている。

図1 総合指数の動き

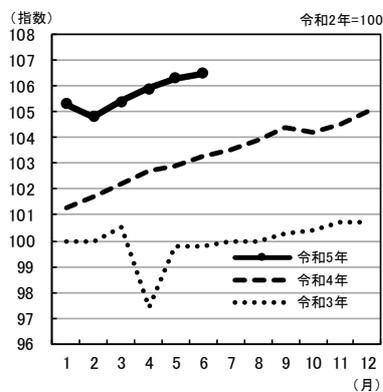


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

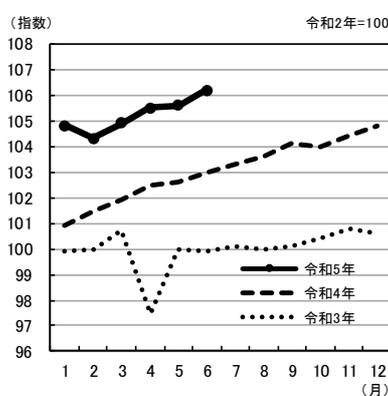
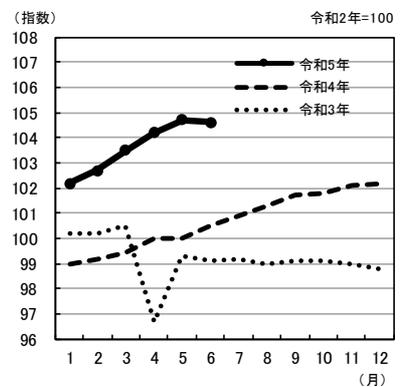


図3 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数の動き



※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

10大費目指数の動き

(令和2年=100)

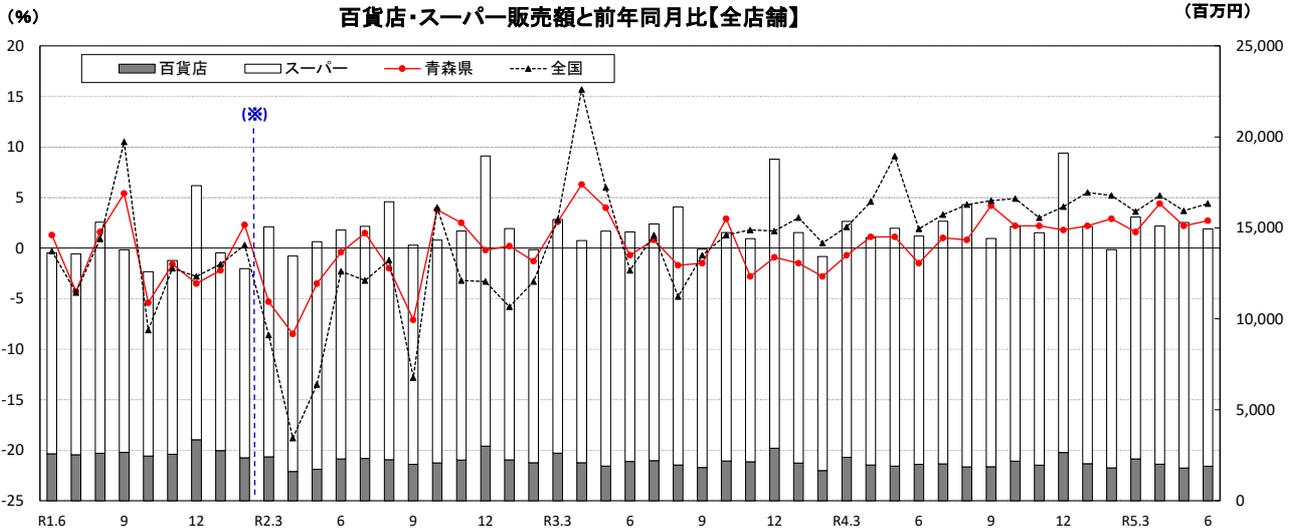
	総合	生鮮食品を除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱水道	家具・家事用品	被服履物	服被物	保健医療	交通	通信	教育	教養	諸費
当月指数	106.5	106.2	104.6	101.7	112.3	110.8	104.3	117.3	108.1	105.9	100.3	94.3	99.2	105.2	103.9		
前月比(%)	0.1	0.6	▲0.1	▲0.4	▲1.1	▲8.2	0.0	6.1	▲2.4	▲1.4	0.3	0.3	0.0	▲1.7	0.2		
寄与度	—	0.55	▲0.11	▲0.24	▲0.31	▲0.43	0.00	0.64	▲0.10	▲0.04	0.01	0.04	0.00	▲0.13	0.01		
前年同月比(%)	3.1	3.1	4.0	2.6	6.9	1.8	1.9	▲3.1	3.3	6.6	2.9	2.5	▲0.1	2.8	1.7		
寄与度	—	2.99	3.36	1.59	1.96	0.09	0.41	▲0.36	0.13	0.20	0.12	0.31	0.00	0.22	0.10		

資料：県統計分析課「消費者物価指数 月報」

(2-4) 個人消費

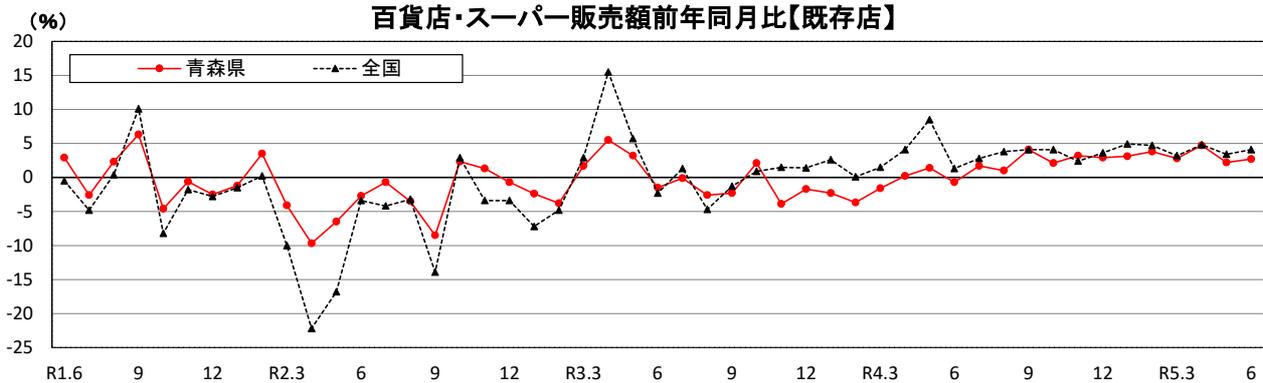
(2-4-1) 百貨店・スーパー販売額

令和5年6月の百貨店・スーパー販売額は、149億円で全店舗ベースが前年同月比2.7%増(令和元年同月と同水準)となり、12カ月連続で前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月比2.7%増となり、12カ月連続で前年同月を上回った。



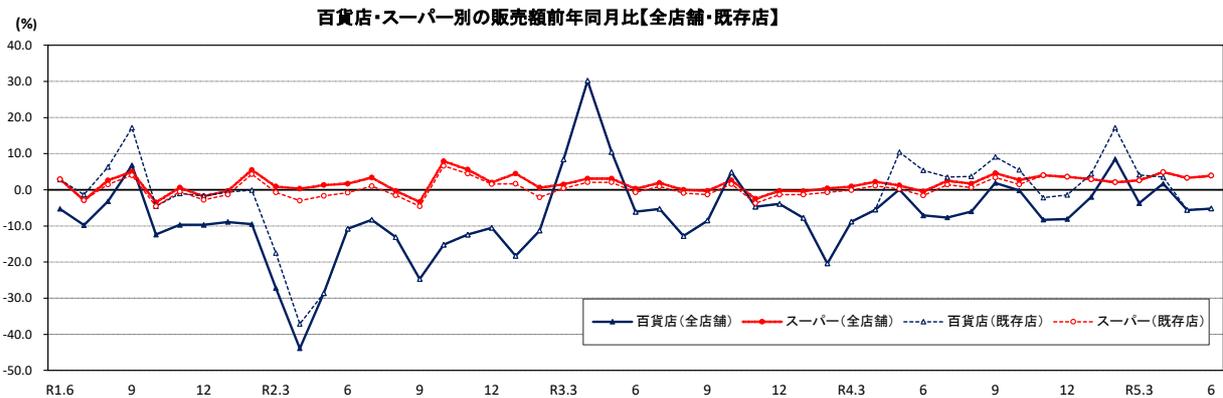
資料: 経済産業省「商業動態統計速報」

※前年同月比は、調査対象事業所の見直しが行われた場合、この見直しによるギャップを調整するリンク係数で処理した数値で計算されている。
R2.3月からはH28年経済センサス・活動調査に基づいた対象事業所の見直しがなされ、スーパー及び百貨店・スーパー合計額の前年同月比について、そのギャップを調整するリンク係数で処理された数値となっている。



資料: 経済産業省「商業動態統計速報」

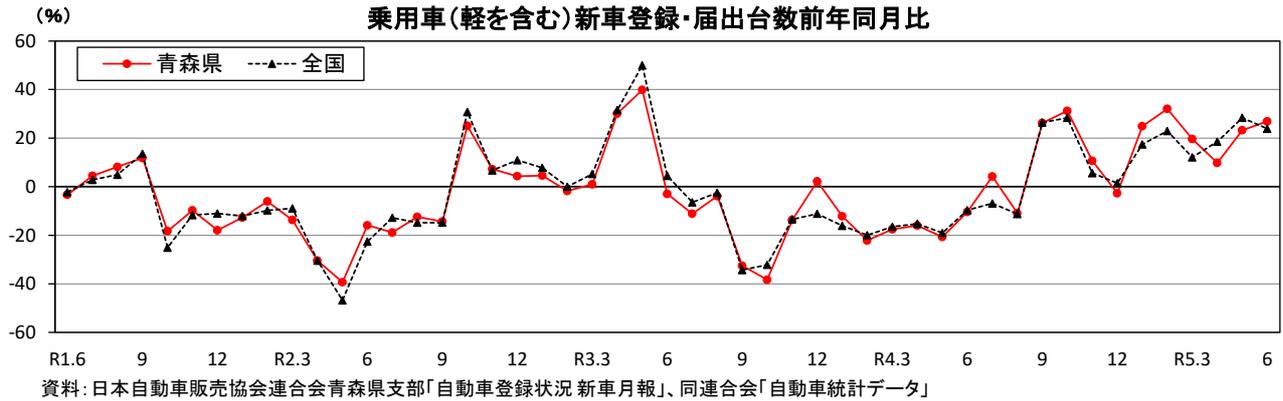
※百貨店は、従業者50人以上の小売事業所のうち、次のスーパーに該当しない事業所であって、かつ、売場面積が1,500平方メートル以上の事業所をいう。スーパーは、売場面積の50%以上についてセルフサービス方式を採用している事業所であって、かつ、売場面積が1,500平方メートル以上の事業所をいう。ただし、商業動態統計調査の家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンターの調査対象企業の傘下事業所で、調査対象となっている事業所を除く。
そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている事業所をいう。



資料: 経済産業省「商業動態統計速報」

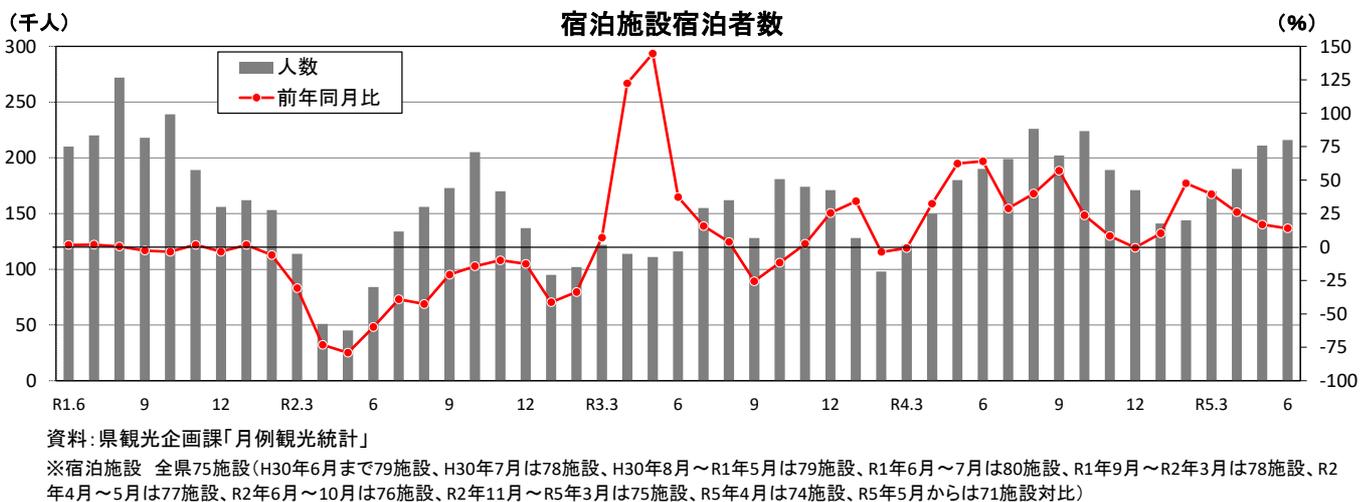
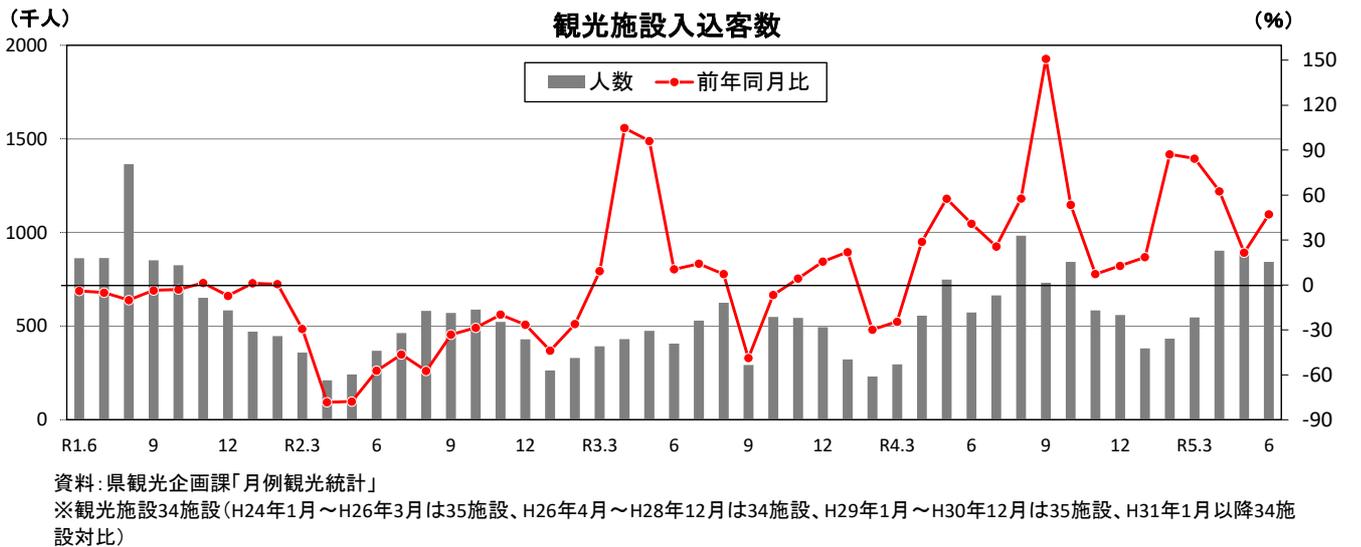
(2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

令和5年6月の軽乗用車を含めた乗用車新車登録・届出台数は3,537台で、前年同月比26.9%増(令和元年同月比7.1%減)となり、6カ月連続で前年同月を上回った。普通車及び小型車が増加したことによる。



(2-4-3) 観光入込客数・宿泊者数

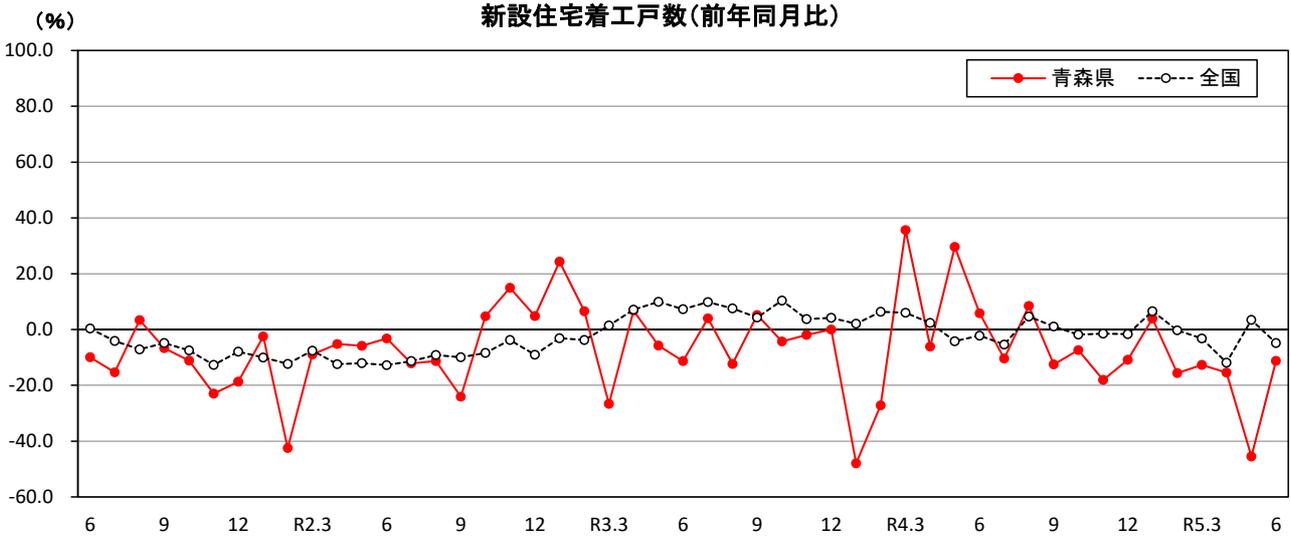
令和5年6月の主な観光施設の観光入込客数は、84万4千人で前年同月比47.1%増(令和元年同月比2.2%減)となった。また、主な宿泊施設の宿泊者数は、21万6千人で前年同月比13.9%増(令和元年同月比4.1%増)となった。観光入込客数は15カ月連続で前年同月を上回り、宿泊者数は6カ月連続で前年同月を上回った。



(2-5) 建設

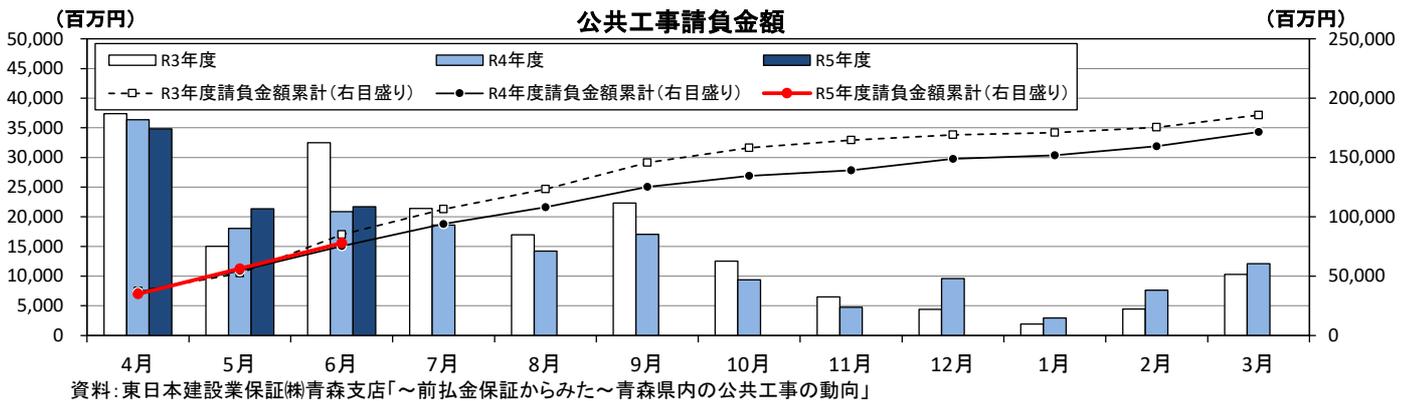
(2-5-1) 住宅建設

令和5年6月の新設住宅着工戸数は481戸で、前年同月比11.3%減となった。持家、貸家等が減少したことによる。



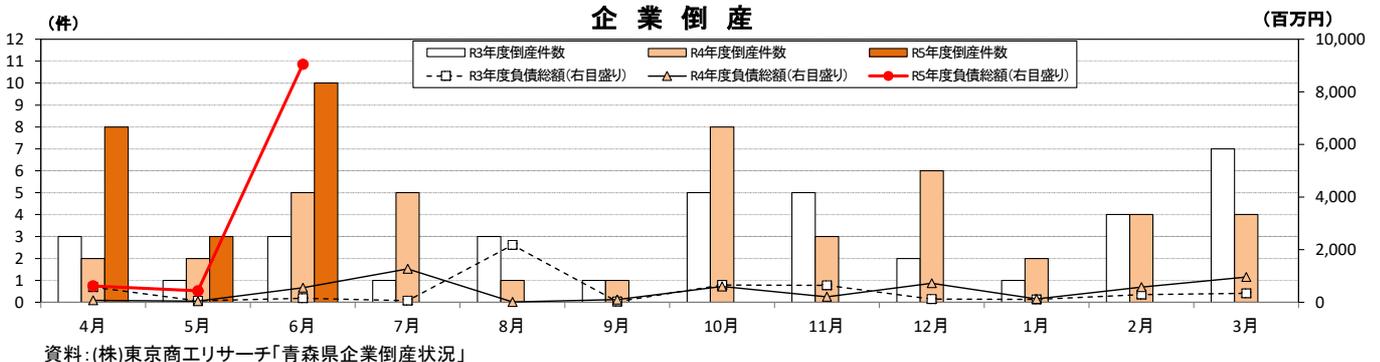
(2-5-2) 公共事業

令和5年6月の公共工事請負金額は216億9,300万円の前年同月比3.9%増となり、2カ月連続で前年同月を上回った。



(2-6) 企業倒産

令和5年6月の企業倒産は、件数は10件で前年同月比100.0%増となった。負債総額は90億4,700万円の前年同月比1533.0%増となり、7カ月連続で前年同月を上回った。



(3) 青森県景気動向指数

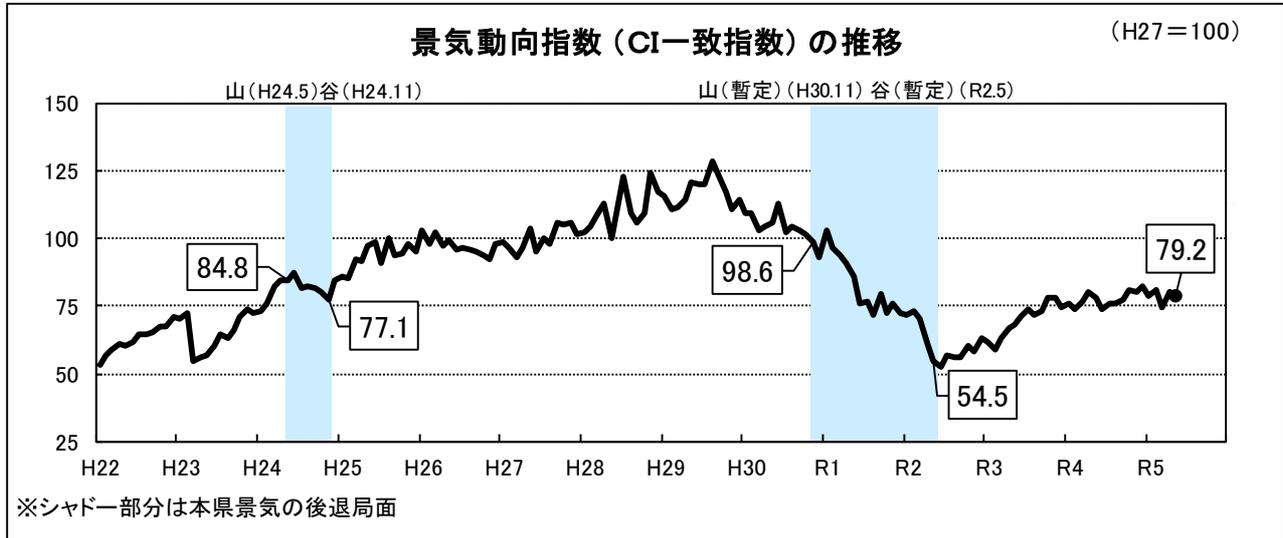
令和5年5月の青森県景気動向指数（C I）は、先行指数108.0、一致指数79.2、遅行指数97.9となった。

先行指数は、前月を2.7ポイント上回り、2カ月ぶりに上昇した。

一致指数は、前月を0.8ポイント下回り、2カ月ぶりに下降した。

遅行指数は、前月を1.9ポイント上回り、2カ月連続で上昇した。

5月の一致指数は、生産関連の指標以外がマイナスになったことから下降した。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
先行系列					
新規求人倍率（全数）	4.93	2カ月ぶり	建築着工床面積	-2.87	2カ月連続
乗用車新車登録届出台数	2.97	3カ月ぶり	新設住宅着工床面積	-1.85	3カ月連続
生産財生産指数	0.91	2カ月連続	中小企業景況D I	-0.79	6カ月ぶり
企業倒産件数（逆サイクル）	0.11	2カ月ぶり	日経商品指数（42種）	-0.31	6カ月連続
一致系列					
投資財生産指数	0.65	2カ月連続	百貨店・スーパー販売額（既存店）	-0.84	2カ月ぶり
鉱工業生産指数	0.53	2カ月連続	所定外労働時間指数（全産業）	-0.51	3カ月連続
			輸入通関実績（八戸港）	-0.50	7カ月連続
			有効求人倍率（全数）	-0.13	3カ月ぶり
遅行系列					
りんご消費地市場価格	0.74	3カ月連続	常用雇用指数（全産業）	-0.81	2カ月連続
家計消費支出（勤労者世帯：実質）	0.70	2カ月連続	県内金融機関貸出残高	-0.01	2カ月ぶり
公共工事請負金額	0.68	3カ月ぶり			
有効求職者数（全数）（逆サイクル）	0.57	3カ月連続			
青森市消費者物価指数（総合）	0.41	3カ月連続			
(参考) 青森県景気動向指数（D I）					
先行指数	62.5%	（7カ月ぶりに50%を上回った）			
一致指数	33.3%	（2カ月ぶりに50%を下回った）			
遅行指数	42.9%	（3カ月ぶりに50%を下回った）			

(4) 青森県景気ウォッチャー調査（令和5年7月期）

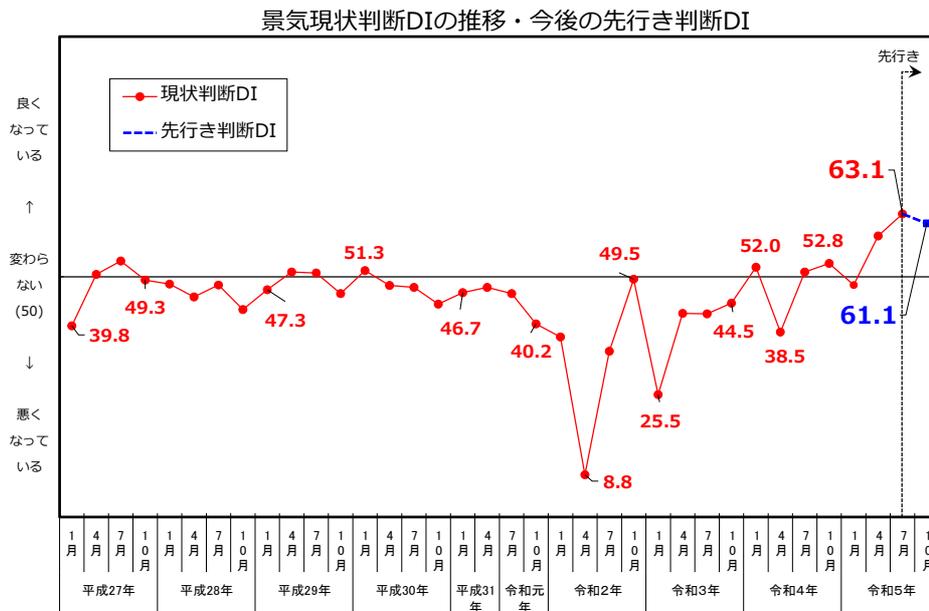
現状判断DIは、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症に移行されたことに伴い、観光客数の増加や各種宴会の増加など、人の動きが活発化しているといった声があり、前期比4.6ポイント上昇の63.1となった。

先行き判断DIは、夏祭りの通常開催や夏休み期間の帰省などにより、人流の増加を期待する声があったものの、光熱費等の価格高騰、物価上昇の影響による消費低迷やコロナ融資の返済が懸念されるといった声があり、現状判断DIと比較して2.0ポイント低下の61.1となった。

3カ月前と比べた景気現状判断DIは、景気の横ばいを示す50を2期連続で上回った。

3カ月後の景気の先行き判断DIは、景気の横ばいを示す50を上回った。

（調査期間 令和5年6月30日～7月23日 回答率 97%）



● 3カ月前と比べた景気現状判断

動向 前期調査と比べると、「良くなっている」が2.0ポイント上昇、「やや良くなっている」が4.1ポイント上昇、「変わらない」が1.0ポイント上昇、「やや悪くなっている」が4.1ポイント低下、「悪くなっている」が3.1ポイント低下となった。全体では63.1となり、前期から4.6ポイント上昇し、景気の横ばいを示す50を2期連続で上回った。判断理由では、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症に移行されたことに伴い、観光客数の増加や各種宴会の増加など、人の動きが活発化しているといった声があった。一方で、依然として続いている物価高騰による消費者の消費意欲の低下を懸念する声も多くみられた。

前期調査と比べて、全ての地区で上昇し、全ての地区で景気現状判断DIを示す50を上回った。

● 3カ月後の景気先行き判断

動向 今期調査の現状判断DIと比べると、「良くなる」が同水準、「やや良くなる」が4.1ポイント低下、「変わらない」が同水準、「やや悪くなる」が4.1ポイント上昇、「悪くなる」が同水準となった。全体では61.1となり、今期調査の現状判断DIと比べて2.0ポイント低下し、景気現状判断DIを示す50を上回った。判断理由では、夏祭りの通常開催や夏休み期間の帰省などにより、人流の増加を期待する声があった。一方で、光熱費等の価格高騰、物価上昇の影響による消費低迷やコロナ融資の返済が懸念されるといった声があった。

今期調査の現状判断DIと比べて、東青、県南、下北の3地区で低下したものの、全ての地区で景気現状判断DIを示す50を上回った。

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

○3カ月前と比べた景気の現状判断理由

◎	企業での大人数の宴会が増えた。旅行や出張客のお客が増えた。(レストラン=県南)
○	観光客も多くなり、宿泊、飲食業もだいぶ戻ってきている。コンビニエンス関係も売上げを戻ってきているので良くなってきていると思う。(卸売業=東青)
○	新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが引き下げとなったことなどもあり、節約志向は依然として続いてはいるものの、「イベント」や「旅行・観光」等に係る需要は伸長している傾向が見受けられます。(家電量販店=東青)
○	まだ完全に回復しているわけではないが、旅行客も増加、学生、社会人の飲み会も開催されるようになり多少は経済がまわるようになってきた。(商店街=津軽)
○	コロナ感染症の5類移行により、人々の往来が増加傾向であることが感じられることから上向き傾向であると思われます。(ガソリンスタンド=県南)
○	人の流れが市内はもちろん、市外へ出たり、また市内へ流入したりと動きが増加している。(商店街=県南)
○	休日の大型商業施設は駐車場もいっぱい人手も多くなっている。一方平日の人は出まわちで、小規模の商店での売り上げは昨年と同様という声が聞かれる。各種宴会やイベントは回数や集客数は回復傾向にあるが、人手不足の影響で何とか人手をかけないように工夫をしているのが分かる。(経営コンサルタント=津軽)
□	光熱費の高騰・物価高により お客様のマインドが慎重になっているようにも感じ、またコロナが明けたかのような勢いも感じ、判断が難しい所だから。(商店街=東青)
□	お客様の動向(イベント・展示場来場)はあるが、融資(融資額)が通らないので、建築を控える結果となる。(住宅建設販売=津軽)
□	コロナが終息しつつある事は上向き要因であるが、物価高騰がそれを全て打ち消している。(一般小売店=県南)
□	コロナ感染が落ち着き、観光客が増えてきている実感はあるが、物価が上がっているせいか、地元の人々の動きが鈍いような気がする。(ガソリンスタンド=下北)
△	物価の上昇に加え、受注状況にも偏りがあり、全体的に良いとは言えないため。(電気機械製造=津軽)
△	人手不足(業務遂行に必要な資格者不足)や原燃料価格の高騰など、様々な業種のお客様が、経営の現状や未来に苦慮されている様に感じる。(人材派遣=県南)

記号の意味：◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

○3カ月後の景気の先行き判断理由

◎	ねぶた祭の通常開催、お盆休みを利用した観光客の増加。(観光名所等=東青)
○	各地区のイベントや夏祭り開催、お盆での帰省客、観光客増が期待できる。それによって、消費動向に良い影響を与えそうのため。(百貨店・スーパー=東青)
○	ガソリン等の販売価格は上昇してきているものの、観光客の来県状況や飲食店への客の入れ込みは増加しており、全体としては景気は上向いてきていると感じる。8月のねぶた祭りやお盆も控えており、当市への県外客の流入も予想され、当社売り上げも伸びると予想している。(ガソリンスタンド=津軽)
○	現時点で経済活動が活発になっているためその動きが継続されると予想している。(卸売業=県南)
○	各地区で、大きいイベントがあるのでそれに伴い人の動きが活発になる。それが大きい要因になると考えられる。まず天気次第かな。(一般飲食店=県南)
○	夏祭りも例年通りに行われるようだし、今年は帰省すると言う友人も増えてきたので、賑やかな夏になるのではと期待している。(ガソリンスタンド=下北)
□	消費物価変動が景況の見通しに左右されますが急変は望めそうもない。目先のガソリン価格、円高など動きを見守りたい。(設計事務所=東青)
□	業種により異なり全体の景気観は変わらない。(乗用車販売=津軽)
□	最低賃金や賞与など少しずつ良くなっても物価に吸収されてあまりゆとりにはつながらない様な気がします。(美容院=県南)
□	物価高騰やインボイスによる増税で全体的に消費活動が鈍ると思う。(住宅建設販売=県南)
□	いい話題がない。(コンビニ=下北)
△	旅行支援が7月で終了するので、ある程度の反動は覚悟しており、その影響を見込んでやや悪化との判断である。なお、ねぶた時期についてはコロナ禍以前の例年並みまで回復が見込まれる。(観光型ホテル・旅館=東青)
△	コロナ前に比べれば社会全体が活性化したように見えているがコロナ禍の期間で失った資金や借入れ等で苦しいのは、これからになるだろう。(広告・デザイン=県南)

記号の意味：◎良くなる、○やや良くなる、□変わらない、△やや悪くなる、×悪くなる

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」